



●重光会会長 吉田 正信さん (75歳・安岐町山口)

重光先生が直接お声をかけてくれましたが、どんな内容だったかは記憶にありません。ただ、学校の先生が、「重光先生は、日本にはなくてはならない大切な人だよ」と言われたことを覚えていま

私が、16歳のとき重光葵先生が亡くなりました。私が重光先生と直接お会いできたのは、小学校5年生のときと6年生のときでした。重光先生が、安岐町山口にある重光家のお墓にお参りする際

に、旧山口地区公民館に立ち寄ってくれたからです。重光先生を全校で出迎えるのに、先生たちが準備におわれ、すごく緊張していた記憶があります。私の重光先生の印象は、「車から降りてきたとき、山高帽を

被っていて大きな「いな」ということでした。それと、「大きな一本杖をついていた」のをよく覚えてい

重光葵先生が、昭和32年に亡くなられてから、南安岐地区の皆さんで、重光葵先生の遺徳を偲び、重光葵先生の号「向陽」にちなんで「向陽祭」を行うようになってきました。重光葵先生の命日1月26日に毎年開催されています。これは、地域の皆さんが、重光葵先生を大事に思う気持ちの表れだと思います。

表として日本の降伏文書に調印する誰もが引き受けたがらない任を、日本の平和と新しい日本を再建するために引き受けました。そんな重光先生の想いも通じてか、戦後日本は目覚ましい経済成長と平和主義国としての確固たる地位を築いています。このまま平和で素晴らしい日本が永久に続いていくように、重光先生の想いと功績を後世にしっかりと伝えていきたいと思



◀山溪偉人館に所蔵されている重光葵ゆかりの品

語り継ぐ70年前の記憶

わが地元の偉人 重光葵

ことができるようにするものです。上野さんにこのことを教えてくれたのは、暁部隊として派遣され、そのまま国東に居住した伊牟田俊雄さんでした。

▶右端にある看板の下辺りに杭があった

⑤ 富来城公園

上野さんは、7月28日のグラマン機の爆撃のあと、浦手地区の商店街を歩いて家に帰りまし



た。ガラスが爆風で全部割れており、草鞋を履いていたものの、足の踏み場がなかったそうです。そして、富来城公園を通っていたら、防空壕から同級生の女の子が泣きながら出てきたのを覚えているそうです。

◆上野 忠雄さん

私の知っている暁部隊の皆さんは、とても面倒見が良く優しい人ばかりでした。そんな人達も、いざ戦争となれば、日本のために命を捧げ、敵を殺すことができる兵隊です。その兵隊に教えてもらった鉄砲の撃ち方や日本刀の扱いが上手になり、



▲防空壕の入り口を見ている様子

褒められたことを喜んでいた私も知らず知らずの内に兵隊になり始めていたのだと思います。今思えば、一番怖いのは兵隊になり始めている自分に何も疑問を感じていなかったことです。今の子ども達には、時代に流されずしっかりと考える力を養ってもらい、二度と悲惨な戦争を起こさないでほしいと心から願っています。

◆小島 安治さん

この取材を受けることになり、あの当時、暁部隊のために富来川に壕を掘った同級生を探してみましたが、私達2人だけになっていま

記を蘇らせるために事前に散歩をしてみました。当時と様子が変わっていてなかなか思い出すことはできませんでしたが、しかし、空襲を受けた西本さん宅の裏に立つと、



▲上陸用舟艇を隠す壕を掘った河川敷。戦没者の冥福を祈り灯ろうを流す2人

あの時の記憶が鮮やかに蘇ってきました。今の子ども達は、爆弾が落とされた時の対処法など知りません。今の世の中では、必要がないからです。しかし、これから私たちが戦争を体験した者が居なくなるとき、次の世代に平和のありがたさを伝えてくれる人達がいるのだろうかという焦燥感からあるときがありま



▲軍用水筒

まもる 重光 葵とは

大正から昭和30年代までの激動の日本を外交で支えた人物。昭和20年9月2日のミズーリ号艦上で降伏文書への署名、



昭和31年の国際連盟に加盟の記念演説など、重要な歴史場面に立ち会った証人であり、幾多の重要な使命を果たした人でもある。